【EC-2 分析結果のまとめ用フォーマット 記入例】

対応する CQ	その他の併存疾患がない慢性疾患 X の患者に対して Y 薬効群を用いた薬物療法 は有効か。
設定した費用対効果の リサーチクエスチョン(RQ)	その他の併存疾患がない慢性疾患 X の患者に対して、Y 薬効群の医薬品(A, B, C)のうち、どれを用いるのが最も安価であるか。
評価対象技術	Y 薬効群の医薬品である A, B, C
評価対象集団	併存疾患がない慢性疾患 X の患者
分析の立場	■ 公的医療の立場 □ その他 (括弧内に具体的に記載する)
分析手法	■ 費用最小化分析 [効果を同等とおく場合] □ 費用効果分析 [ICER を算出する場合]
費用の算出方法	■ 医療技術の公定価格(単価)のみ□ 一定期間における関連する医療費(積み上げ)□ 一定期間における関連する医療費(レセプト)□ モデリングを用いた推計
単価(価格)の設定時点	2020年 5月 時点の価格
比較対照技術	A,B,C を相互に比較する
分析期間	■ 単価の比較,あるいは短期間における医療費の比較 □ 生涯 □ その他(括弧内に具体的に記載する)
効果指標	■ 特に設定せず [効果同等の場合] □ QALY □ その他 (括弧内に具体的に記載する)
割引率	■ 割引せず [短期間での分析] □ 年率 2% □ その他(括弧内に具体的に記載する)
分析結果の概要	医薬品 A, B, Cの1日薬価を比較したところ, それぞれ 350.8 円, 257.6 円, 432.9 円であった。
関連する公的機関等による評価結果	□ なし ■ あり (3つの医薬品のうち、医薬品 C は費用対効果評価の対象となっていた。 医薬品 C は医薬品 B と比較してイベント回避を効果指標とした追加的有効性が示されておらず、費用は高かった。)
分析結果の解釈	患者にとって治療上同等であると考えられる場合には、まずは最も安価な医薬品 Bの使用が最も費用対効果に優れる。